

U.S. Indicators

発表日:2019年4月10日(水)

米国3月消費者物価の安定確認で金利抑制

～FRBは長期にわたり忍耐強くなれる～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア
18/03	+0.052	(+2.4)	+0.189	(+2.12)	▲1.4	+0.1	+0.3	▲0.5	▲0.5	+0.3	▲0.0	+0.3
18/04	+0.184	(+2.5)	+0.108	(+2.14)	+0.9	+0.2	+0.3	+0.0	+0.1	+0.1	▲0.2	+0.2
18/05	+0.276	(+2.8)	+0.190	(+2.24)	+1.5	+0.1	+0.2	+0.1	+0.7	+0.1	▲0.1	+0.3
18/06	+0.195	(+2.9)	+0.164	(+2.26)	+0.6	+0.1	+0.1	▲0.7	+0.6	+0.4	+0.0	+0.2
18/07	+0.184	(+2.9)	+0.213	(+2.35)	▲0.0	+0.1	+0.2	▲0.3	+0.4	▲0.1	+0.0	+0.3
18/08	+0.112	(+2.7)	+0.082	(+2.20)	+0.5	+0.1	+0.3	▲1.3	+0.3	▲0.1	▲0.2	+0.2
18/09	+0.052	(+2.3)	+0.158	(+2.17)	▲1.0	+0.1	+0.1	+0.9	▲0.5	+0.2	▲0.1	+0.3
18/10	+0.311	(+2.5)	+0.196	(+2.14)	+2.1	▲0.0	+0.3	+0.2	+1.0	+0.2	+0.3	+0.2
18/11	▲0.013	(+2.2)	+0.235	(+2.21)	▲2.8	+0.2	+0.3	▲0.6	▲1.0	+0.4	+0.2	+0.2
18/12	▲0.015	(+1.9)	+0.180	(+2.18)	▲2.6	+0.3	+0.3	+0.0	▲1.5	+0.3	+0.0	+0.2
19/01	▲0.020	(+1.6)	+0.240	(+2.15)	▲3.1	+0.2	+0.2	+1.1	▲1.3	+0.2	+0.4	+0.2
19/02	+0.174	(+1.5)	+0.110	(+2.08)	+0.4	+0.4	+0.2	+0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.2
19/03	+0.409	(+1.9)	+0.148	(+2.04)	+3.5	+0.3	+0.3	▲1.9	+1.5	+0.3	▲0.2	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

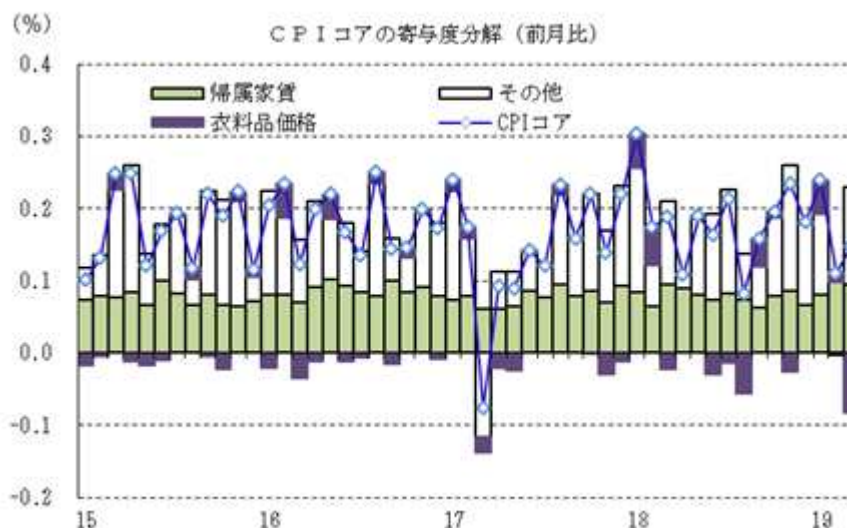
19年3月の消費者物価(総合)は、前月比+0.409%(前月同+0.174%)と加速し、市場予想(前月比+0.4%)と一致した。食料品が乳製品、果物・野菜の上昇にもかかわらず、肉・家禽・魚の下落等により前月比+0.3%(前月同+0.4%)と低下した。また、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.148%(前月同+0.110%)と上昇したが、市場予想の同+0.2%を下回った。一方、エネルギーは、ガソリン、電力などの上昇によって前月比+3.5%(前月同+0.4%)と加速した。

コアのインフレ環境については、CPIコアは衣料品、変動の大きいホテル等宿泊費、航空費などの影響により低下と上昇を繰り返しているが、均してみると、FRBの目標であるPCEコアデフレーターで+2%弱を示唆する上昇ペースで推移している。3月のCPI統計でも、総合が上振れたものの、コアが下振れ安定を維持していることから、インフレ面からは、FRBがかなりの期間忍耐強くなれることを示している。このため、市場金利の上昇も抑制され、低位での推移が予想される。

CPIコアでは、商品(財)の下落が続いた一方、サービスの伸び率が加速した。商品(財)価格では、新車、自動車部品・設備、処方箋薬など医療用品が上昇に転じたほか、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が高い伸びを続けた。一方、衣料品、アルコール飲料、教科書が下落に転じたうえ、家庭用家具・備品が鈍化、中古車が下落を続けた。また、スポーツ器具やゲームなど娯楽商品、情報機器が変わらずとなったことから、商品コアは前月比▲0.2%(前月同▲0.2%)と同率の下落となった。

サービスでは、インターネットサービスが前月比▲1.1%(前月同+0.3%)、自動車保険が同▲0.1%(同+0.1%)、航空運賃など公共サービスが同▲0.2%(同+0.2%)と下落に転じたほか、カーリースが同▲0.6%(同▲1.6%)、レンタカーが同▲1.9%(同▲6.8%)、家事サービスが同▲0.2%(同▲0.3%)と下落を続けた。また、電話サービスは前月比0.0%(前月同0.0%)と変わらずとなった。一方、個人向けサービスが前月比+0.3%(前月同▲0.1%)、自動車関連サービスが同+0.7%(同▲0.2%)、ス

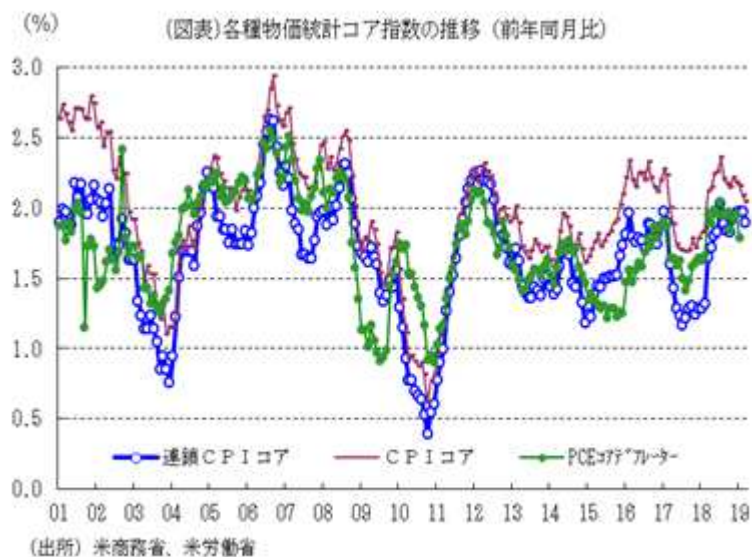
ポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが同+0.4% (同▲0.2%) と上昇に転じたほか、賃貸料が同+0.4% (同+0.3%)、医療保険などを含む医療サービスが同+0.3% (同0.0%)、自動車メンテナンス・修理が同+0.8% (同+0.4%)、上下水道・ごみ収集サービスが同+0.3% (同+0.1%) と上昇率を高めた。また、帰属家賃が前月比+0.3% (前月同+0.3%) と同率の上昇を続けた。さらに、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比+0.9% (前月同+1.4%) と高い伸びを続けた。以上の結果、サービスコアは前月比+0.3% (前月同+0.2%) と加速した。



3月の消費者物価動向を前年比でみると (以下、前年同月比)、総合が+1.9% (前月+1.5%) と上昇し、市場予想の+1.8%を上回った。CPIコアが+2.0% (前月+2.1%) と低下し市場予想の+2.1%を下回ったものの、食料品が+2.1% (前月+2.0%) と上昇したうえ、エネルギーが▲0.4% (前月▲5.0%) と下落幅を大きく縮小した。

CPIコアでは、財コアが0.0% (前月+0.1%) と低下した。内訳をみると、処方箋医薬品、衣料品、テレビやゲームなど娯楽商品、情報機器が下落したほか、衣料品、中古車が低下した。サービスコアは+2.7% (前月2.7%) と安定した伸びを維持した。内訳では、帰属家賃、賃料、自動車保険、医療費、余暇サービスなど需要の強い分野が上昇を続けた一方、カーリース、レンタカー、航空運賃など公共サービス、携帯などの電話サービスが下落した。

より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.90% (前月+1.98%) と低下した。以上より、前年比でもインフレの安定が持続していることを示している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

